

●アメリカ

ストーリーテリング・フェスティバルを中心に

櫻井美紀

一 新しい語りⅡモダン・ストーリーテリングの始まり

アメリカにおける現代の語りの始まりは、十九世紀の終わりにアメリカの図書館を拠点として始まったとみてよい。「現代の語り」または、「新しい語り」ともいわれる《モダン・ストーリーテリング》は、昔ながらの語りと様変わりしたところから始まった。伝承の語りを「村の語り」と呼ぶならば、新しい語り《モダン・ストーリーテリング》は「都市の語り」と呼ぶことができる。

一八八九年に、アメリカのニューヨーク市立図書館とピッツバーグのカーネギー図書館とバッファロー市のバッファロー図書館で児童奉仕の一環として「ストーリー・アワー」が設けられたのが発端で、数年のうちにほかの地域の公共図書館で同様の試みが行われる

ようになった。一九〇〇年にイギリス人のプロのストーリーテラー、マリー・シェドロックが招かれ、全米各地でその磨きぬかれたストーリーテリングのパフォーマンスを披露したことが、各地の図書館児童室での「ストーリー・アワー」の開設を促すことになり、図書館のストーリーテリングは次第に「子どもと本を結ぶ有効な手段」として図書館の業務の中に根づいていった。

この図書館での新しい語りは、カナダにも直ちに伝えられ、トロント市にあるトロント市公共図書館少年少女部（通称「少年少女の家図書館」）で、一九二二年から初代の児童部長となったリリアン・スミスが理論化し体系づけて以来、アメリカとカナダの公共図書館における図書館児童サービスの部門に根づいていった。本の中のお話を口語りに直して子どもたちに語るのが、図書館という《ストーリーテリング》である。

このように子どもに本を手渡す業務の中で生まれたのが「モダン・ストーリーテリング」だが、これら、児童図書館員の語りが伝承の語り手の語りと大きく違った点は、いったん本の中に閉じ込められた昔話や物語をあらためて口語りにするもので、口承ではないところである。ここで、新しい語りの特徴を一口で表すなら、それは「文字の介在がある」ということになる。

今日、世界で行われている語りの活動には、伝承の語りから直接学んだ語りと、図書館系統の新しい語りがあるが、双方が良い関係を持って交流している。その例としてアメリカのテネシー州で、一九七三年から毎年十月に開催されている「ナショナル・ストーリー

テリング・フェスティバル」を紹介したいと思う。

二 ストーリーテリング・フェスティバルの概要

これは、今世紀に昔ながらの語りの楽しみを復活させた大きなイベントで、フェスティバルの期間はテネシー州の小さな町に毎年八千人以上の聴衆が集まり、各方面から注目されている語りの祭りである。

開催地はテネシー州ジョンズボロという町で、人口は約三〇〇〇人、創立二〇〇年の歴史を誇る小さな町である。さびれた古い南部の町として町の経済が破綻しかけたときに、町興しのイベントとして企画したのが「ナショナル・ストーリーテリング・フェスティバル」である。その第一回は一九七三年に開催され、以後毎年、十月の第一金曜日から日曜日までの三日間をフェスティバルとして開催されている。

祭りの創立者の一人のジミー・N・スマスは、その企画段階からの経過を著書『ホームズパン』（邦題『ストーリーテラーたち——現代アメリカのフォークローア——』阿彦周宜訳、大修館書店）のまえがきで述べ、さらに「毎年十月になると数千人の旅行者が、この町にやってくる。豊かで多様なアメリカのストーリーテリングの伝統を祝い、お話を聞き、語りを分かち合うために。一九七三年に始まったこのフェスティバルは、ストーリーテリング・アートを披露し合う祭典の中では全米一古く、最高に権威のあるものである。現

在アメリカには数百人のストーリーテラーが存在するが、このユニークな催しこそ、由緒あるストーリーテリング・アートの全国的な復興を引き起こした」と記した。

最初はミンシッピのアライグマ猟師にしてストーリーテラーであるJ・クラウアーの話を聞くことから始まった。そのあと、集まった人々の中から、ほら話や自分たちの経験したおかしな話が次々と飛び出し、いつのまにか語りを聞き、語り合う集団となったということである。一九七四年の第二回の祭りからは、ストーリーテラーたちがステージの上で伝統的な昔話や幽霊話を語るようになったが、この祭りの中心をなすものは自分たちの語りを披露するフォーク・アートとしての語りの活動である。土地に伝わるほら話を語るフェスティバルが発端だったが、J・N・スマスは一八九〇年代の図書館の先駆者たちによる新しい語りの活動を評価して、「図書館員たちの書承による語りの業績がアメリカのストーリーテリング・ルネッサンスの礎を築いた」といつている。

それから二十数年たった現在、このフェスティバルでは毎年二十人のプロのストーリーテラーが招かれ、さまざまな話を生き生きと語っている。

語りの会場はなだらかな丘や林の中に張られた大きなサーカステントである。八〇〇席ほどのパイプ椅子が並べられ、ステージと照明があり、ビデオ撮影と録音の設備を施した会場が町中と町の周辺に六箇所ほど用意され、それぞれの会場は平行して午前から夜までのプログラムが組まれる。夜十時からは野外の小川のほとりの特設



ナショナル・ストーリーテリング・フェスティバルのテント張りの会場

ステージで、「ミッドナイト・キャバレット」と「ゴーストストーリー・コンサート」が行われ、そのときは小川のほとりに約二千人が毛布を敷いて座り込み、真夜中過ぎまでの語りを楽しむ。

語り手は種族を代表する晴れの衣装をつけたものから普段着まで思い思いの衣装で登場し、語りの内容は、土地の民話、伝説、昔話、創作の話、自分の経験談、家族や知人の話など、ありとあらゆるものが語られ、一話二十分から三十分、語り方もさまざまである。会場でも夜の野外ステージでも、マイクを通しての語りである。スピーカーはテントの外へも向けられていて、大勢の聞き手はテントの外の芝生にも座って、食べたり飲んだりしながら語りを楽しんでいる。ストーリーテリングは、書物のなかにある話を語るにしても、語り手のアート（芸術・技術というより、芸に近い意味である）で、聞き手を楽しませる語り口がいかに大切かを感じさせる。

聞き手は国内国外から集まり、近年の参加者数は一人を越える。さまざまな職業と年齢の人々で、若いカップル、家族連れ、熟年夫婦、観光客から土地の人々まで老若男女さまざまで、祭りの三日間は町中が熱気であふれる。

三 さまざまな語りのイベント

この語りの祭りの主催はナショナル・ストーリーテリング・アソシエーションで、ジョーンズボロの町に本部を置く非営利団体である。語りの祭りのほかに主催する事業の主なもの以下である。



インターナショナル・ストーリーテリング・フェスティバル・デンマーク、
テントの会場で語るアイルランドのストーリーテラー

◇ ナショナル・ストーリーテリング・カンファレンス

七月中、五日間、本年（一九九八年）はミズーリ州、カンサスシティで。

「ゼネラル・セッション」「ストーリーテリング・コンサート」「ワークショップ」「子どもへの語り」「ストーリー・シアター」ほか。

◇ テラブレーションとストーリーテリング・ウィーク

テラブレーションとはテリング（語る）とセラブレーション（祝典）をつなぎあわせた造語で、毎年十一月、感謝祭の前土曜日の晩に、全米の各地の語りのグループで、いっせいに語りの会を開き、語りの心をわかちあおうというもの。この呼びかけは一九八八年から始まり、呼びかけに應えるグループは全米で一〇〇箇所ほど、全世界で約二〇〇箇所ある。そのテラブレーションの前の一週間をストーリーテリング・ウィークとしている。

◇ 「ストーリーテリング・マガジン」の発行

年六回発行。会員に送られるストーリーテリング情報誌。海外からの申し込みに応じて海外会費が設けられている。

二十五年前にスタートしたアメリカの新しい語りのイベントは、全世界に影響を及ぼした。日本では一九九二年に「全日本・語りの祭り」が始まったが、その開催の理念は、このナショナル・ストーリーテリング・フェスティバルから学んだものであった。日本での語りの祭りがスタートしてから、一九九三年に私たち日本の語りの

祭り実行委員数名がジョーンズボロの語りの祭りを訪問した。それがきっかけとなり、世界の語りの祭りの主催者、主催団体との交流が始まった。アメリカの各地で同様のストーリーテリングのフェスティバルが行われており、同様に世界のあちこちにもあることも分かった。この二年間で私のほか会員の一人は「デンマーク国際語りの祭り」「オーストラリア国際語りの祭り」「トロント国際語りの祭り」の三個所から日本のストーリーテラーとして招かれ、日本の民話を語ってきた。世界のテラプレーションに日本が参加したのは一九九五年から（昨年の日本からの参加は六二グループ）であった。

アメリカをはじめ、各国のストーリーテリング・フェスティバルを見学し、そこで語り、交流して思うことは、現代のストーリーテリングの幅の広さである。アメリカでは、自分たちの語りとして、自分史を語り、家族や友人のことを語り、それをオリジナルなストーリーテリングとしてフェスティバルの中心に据えている。世界の語りの祭りでは古代民族の遺した神話や伝説、中世の吟誦者たちが遺した物語群も語られる。音楽の伴奏も入り、語り手はそれぞれの語り口を工夫し、聞き手の反応を見ながら効果的な芸の披露を行う。

世界のストーリーテリング・フェスティバルで堂々と語る語り手の姿から、私たち日本人は学ぶことが多い。ストーリーテリングとは語り手のアートなのである。日本国内で家庭の語りや地域の語りの活動を大切にしながら、世界へ目を向けていくことも必要である。これからはコンピュータ通信の影響ももっと大きくなるだろう。す

でにホームページの世界の語りの情報には日本の語りのイベント情報が載せられている。

(さくらい・みき／語り手たちの会)